や枯枝の突端に小指頭大のコロニーを作っているのが見られる。之は呼吸により活潑になり、岩石の穴や、枯枝の下側に潜んでいたのが突端に集まり明らかに認められるようになるのである。佐々、田中等はこの現象を追求し恙虫が唯一つ炭酸ガスによつて第一次刺戟状態に入り、その状態になつた恙虫は他の色々な刺戟に応ずる様になると云う事が明らかになつた。*T. scutellaris* が八丈に於ける恙虫病の媒介者として擬されているが、その直接決定が困難な現在、その消長を解明し患者発生との関係を知る事は媒介者と推定する上に重要な根拠となる事である。そこで、患者の発生曲線を見ると多少患者発生曲線の山が後にずれるが、略々一致し又この時期には他に *T. burnsi* の発生を見るが之は数が極めて少なく、野鼠からは採集出来ず、プレートで5匹が採集出来たにすぎないから之の媒介者としての根拠は甚だ薄弱である。

八丈に於ける恙虫病の臨床像は、古典的恙虫病の特徴を皆備えている。肝機能検査で約半数の病的有所見者を見、心電図には13例中8例のS.T異常を認めた。治療面でオーレオマイシン、テトラシンを用い、100 mg で再燃なしに治癒させる投与法を確定出来た。(八丈・三根診療所、伝研・寄生虫)

〔質問〕 小畑義男氏(新大・医動物)

八丈島に於ける *T. scutellaris* と *T. pallida* の発生割合如何。

〔回答〕 上野庸治氏(八丈・三根診療所)

T. pallida burnsi はプレート法により、1月10日より2月6日迄に7匹採集したにすぎない。発生割合は、*scut.* 160に対し、*pall.* 1匹の割合である。

岐阜県の恙虫

今井田 二三子

Imaida, F.: On the tsutsugamushi
in Gifu Prefecture

昨年に引き続いて更に岐阜県の高部地区の恙虫の分布状況を調査したので報告する。30年12月、及び31年2月に、岐阜県の東部地区の東白川、多治見市及び恵那郡川上村で各1回の調査を行つたところ、東白川村ではモグラ1頭より、*T. mitamurai* を176匹採取し、多治見市では、アカネズミ2頭、ハタネズミ1頭より、*T. fuji*, *Gahrlepieia saduski* を、恵那郡川上村では、アカネズミ3頭より、*T. fuji*, *T. pallida*, *T. palpalis*, *Gahrlepieia saduski* を採取した。*T. mitamurai* は岐阜県に於ける最初の記録で、しかも宿主がモグラであるのは新しい記録であると言われる。現在迄に私の調査し得た岐阜県の恙虫は、*T. fuji*, *T. kitasatoi*, *T. pallida*, *T. pal-*

palis *T. mitamurai*, *Gahrlepieia saduski* の2属6種類で、*Gahrlepieia saduski* の脊甲板の後方毛は、西部及び東部地区とも2本のもので西日本型を示して居る。季節的には *T. fuji*, 及び *Gahrlepieia saduski* が出現期間が長く、概ねどの地域からも採取出来た。まだ春から夏にかけての調査が充分でないが岐阜県に棲息する恙虫は主として冬型のもので、しかも概ね西日本型に属するものであると思われる。(岐阜医大・寄生虫)

大阪地方の恙虫の研究(第1報)

藤戸 貞男 武衛 和雄

Fujito, S. & Buei, K.: The trombiculid
mites in Osaka Prefecture (I)

1954年11月から1956年1月にわたつて大阪府下の主なる地区12カ所において恙虫の調査を行つた。採集は11月から3月まで行い、この間に捕獲された野鼠は、クマネズミ2、ドブネズミ16、ハツカネズミ4、ハタネズミ11、スミスネズミ1、ヒメネズミ3、アカネズミ60頭及びヒミズモグラ26頭総計123頭であつた。これらに附着していた恙虫は3属12種(4,351)で、多いものから順にあげると、*T. fuji*, *kitasatoi*, *G. saduski*, *kansai*, *kochiensis*, *pallida*, *tanaka-ryoi*, *tamiyai*, *palpalis*, *japonica*, *miyajimai*, *E. alpina* となる。これらの組成比をみると、*fuji* が全体の33.6%, *kitasatoi* 25.7%, *G. saduski* 25.2%を占める。これらの種類の地理的分布相について考察すれば、大阪府下においても分布が局限される種類があらわれている。たとえば、*palpalis*, *tanaka-ryoi*, *miyajimai* などは北部(北摂山地帯)だけから採集され、*E. alpina* は中、南部(生駒、金剛山系、紀伊山系)から採集されるが、北部には分布しない。これらは地質などの特異性によつて分布が局限されるものであろう。また、淀川沿岸地帯(低湿地)の野鼠からは全く恙虫を認めることができなかった。寄主に対する恙虫の寄生率は、ハタネズミ(指数128)が最も高く、次いでアカネズミ(51)となる。クマネズミが野外において捕獲され、かつ恙虫の寄生がみられたことは、疫学的に重要性をもつものとして注目される。

つぎに胴背毛式の度数分布についてみると、つぎのような変動が観察された。*palpalis*: 第2列10-13本(平均11), 第3列10-14本(平均12). *pallida*: 第2列10-14本(平均12), 第3列8-14本(平均12). *tanaka-ryoi* 第2列8-12本(平均11), 第3列8-14本(平均11). *kitasatoi*: 第2列8-9本(9本=18例), 第3列6-7本(7本=4例). *G. saduski* の後部背甲板毛はすべて2

本(1,096)で、西日本型を示していた。(大阪府・環境衛生課)

米子及び大山に於ける恙虫(第3報)

西 田 弘

Nishida, H.: Trombiculid mites in Yonago and Mt. Daisen (The 3rd report)

米子及び大山に於ける野鼠についての恙虫の調査は、その一部は既に報告したが、昨年3月中旬より12月迄に得られた成績は次の通りである。米子に於ては *A. speciosus* 45, *M. japonicus* 3, *M. montebelli* 1, *U. talpoides* 2, 計 51 頭の野鼠を検査し、これから、*T. pallida* 4, *T. palpalis* 76, *G. saduski* 241, *T. fuji* 2414, *T. mitamurai* 2, *T. kitasatoi* 114, *T. miyajimai* 15, *E. ikaoensis* 5, *T. murotoensis* 146, *T. tanaka-ryoi*? 1, 不明のもの 1, 計 3 属 9 種(?)を附けたものを除く) 3019 疋の恙虫幼虫を得た。大山に於ては *A. speciosus* 76, *A. smithii* 4, *U. talpoides* 13, 計 93 頭の野鼠を検査し、これから *T. japonica* 48, *G. saduski* 25, *T. nagayoi* 60, *T. miyajimai* 3, *E. ikaoensis* 1, *T. kuroshio* 4, *T. murotoensis* 60, *T. tanaka-ryoi* 571, *T. kochiensis* 72, *E. alpina* 7, *T. daisen* 962, 不明のもの 34, 計 3 属 11 種 1850 疋の恙虫幼虫を得た。これらの恙虫幼虫につき採集時期に分けて、宿主の種類と恙虫の種類との数量的関係について述べ、又恙虫各種の季節的消長についてその大体の傾向を明らかにした。*G. saduski* の背甲板の後部の毛の数は総て 2 本であった。*T. tanaka-ryoi*? としたものは *T. tanaka-ryoi* の胴背毛第 2 列に相当の変異が認められる事から、*T. fuji* との中間型ではないかと考えられる。

次に野鳥についての恙虫の調査は、昨年3月から11月迄の間に 8 種 9 羽の小鳥を検査した。この内 11 月に大山で捕えたミソサマイ *Troglodytes troglodytes fumigatus* 1 羽から *Mackiena* sp. の幼虫 5 疋を得たので、このものについてその形態的特徴の概略を述べた。この属の中で我国で知られている唯一の種である *M. todai* と較べると、AP(25 μ 以上), pp-ss(+7~+11), 胴背毛(2-8+2-10-7-8...計 51~55), 胸板毛(2対), 腹面の毛の総数(46本以上), Coxa II(2本の毛), Coxa III(A型), 及び各脚の末端部等に於て相当の差を認める。これが独立種であるか否かについては更に検討したい。いずれにしても本属のものが、九州のみならず本州にも又分布している事は明らかである。(鳥取大・公衆衛生)

高知県の恙虫の研究(第2報)

国 友 文 夫

Kunitomo, F.: Studies on the trombiculid mites in Kochi Prefecture (2)

高知県の恙虫病有毒地白田川村に於て 1953~55 年までに部落、田畑、山林別に年間を通じて、凡そその他 779 疋を捕え、それらに寄生の恙虫 51,814 疋を分類調査の結果、同地方では山林、田畑、部落を通じて棲息する恙虫は *T. kitasatoi*, *T. fuji*, *Gahrl. sad.*, *T. kochiensis*, *T. murotoensis*, *T. kuroshio* であつて、*T. miyajimai*, *T. pallida*, *T. ichikawai*, *T. kansai*, *Walchia ogatai* は山林と田畑に、*T. tosa*, *T. yasukakai* は田畑と部落に、*T. mitamurai*, *T. miyairi* は山林に、*T. tamiyai*, *E. ikaoensis* は田畑に見られる。しかし此様な地域的分布を示すのは、(1) 恙虫の種類そのものによつてか、(2) その最適の宿主の種類及びその宿主の棲息する場所が限られているためかという点が問題となる。そのため 1955 年 4 月より恙虫の寄生していないクマ、ドブ鼠を金あみかごに入れ、部落、田畑、山林別に同時に埋没飼育し、その間その各場所で対照として自然棲息している鼠を捕え恙虫の寄生状況を比較実験している。モグラに寄生する種類の恙虫は別として、現在までに判明したところでは、同地方では、(1) アカ鼠に主に寄生している *T. miyajimai* が部落で見られないのは、部落のクマ、ドブ鼠にも寄生はするが、この恙虫の棲息数が部落では非常に少いためである。(2) *T. tosa* が山林に見られないのは、その最適の宿主であるクマ、ドブ鼠が山林に棲息しないためではなくて、*T. tosa* そのものが山林に棲息しない。(3) 山林に多い *T. mitamurai* は藪のような場所以外は、その最適の宿主であるヒミズにも部落、田畑では寄生を見ない。他方同地に於ける鳥類への恙虫の寄生状況も調査しているが、1956 年 2 月末日現在で 11 科 21 属 25 種 105 羽を調査した結果、そのうちの 6 科 9 属 14 種 36 羽に恙虫の寄生が見られた。寄生恙虫の種類は 4 属 10 種であつて、その宿主との関係は *T. kitasatoi* はアトリ、クロジに、*T. murotoensis* はアトリに、*T. pallida* はツグミに、*T. yasukakai* はスズメに、*T. tamiyai* はトラツグミに、*T. mitamurai* はアトリ、トラツグミに、*E. miyagawai* はオオコノハズク、シロハラに、*N. shirai* はキジに、*N. asakawai* はクロジ、アラジ、ミヤマホホジロ、シロハラ、ツグミ、トラツグミ、ビンズイ、タヒバリに、*M. todai* はクロジ、アラジ、シロハラ、ツグミ、トラツグミ、ルリビタキ、ビンズイ、メジロに寄生している。(高知市・国友医院)